

作らん——寶曆十年此をより草案を
と——め同十二年五月廿日——記——おたり
傳る雲氷に漂泊の所なれを定ぬきしと指
所もなく名のなきを名しなきに何業謹書

出羽國風土畧記

凡例

一 近年字彙を頼て新に説を傳り仏を祓と
——祓を仏とまゐるをれ多し故に該社に
傳へ來れる縁起古記亦詞拙く略言此事
し多かれともそ文章をそ傳へ載せて一字
も轉さざりしけ末古來の説を正して新に
説を傳へ人のさるを折くる也

一 諸社の縁起古記は國史——見へたる年号
あり割きしに——てそ傳へ書に載傳る名